

# 埼玉県屋内50m水泳場整備事業

## 基本計画

令和4年3月

埼玉県

## 目次

1. はじめに .....	1
2. 基本計画の位置付け .....	3
3. 屋内50m水泳場整備における基本的な考え方 .....	3
4. 設置目的 .....	4
5. 導入機能 .....	5
(1) 国内主要大会の開催 .....	5
(2) 競技力の向上 .....	6
(3) 県民が水と親しむ環境の創出 .....	8
6. 整備場所 .....	11
(1) 神根運動場及び神根公園の立地 .....	11
(2) 神根運動場及び神根公園概要 .....	12
(3) 施設配置のポイント .....	13

<b>7. 整備施設</b> .....	16
(1) 整備施設の内容と必要性 .....	16
(2) 配置にあたっての考慮事項 .....	18
<b>8. 事業スキーム</b> .....	21
(1) 施設整備の方針.....	21
(2) 事業手法の検討結果 .....	22
<b>9. 事業費</b> .....	25
(1) 整備費.....	25
(2) 運営費.....	25
<b>10. スケジュール</b> .....	26
<b>参考. PFI について (出典：内閣府ホームページ)</b> .....	27
(1) PFI とは .....	27
(2) PFI 方式活用により期待される効果.....	29

## 1. はじめに

本県の県営屋内50m水泳場の整備については、埼玉県水泳連盟が「県営屋内50mプールの建設要望に関する署名」101,850人分を集め、平成20年4月に埼玉県議会の皆様と共に知事へ提出されたことがきっかけとなり検討が動き出した。東日本で県営の屋内50m水泳場がない都道府県は本県しかなく、署名には、厳しい環境の中で頑張っている水泳競技の選手たちの願いと、県民の健康増進のためプールを建設してほしいという関係者の熱い思いが込められていた。

以来、県では埼玉県議会水泳振興議員連盟をはじめ、大学や各機関の専門家の皆様のお力添えを頂きながら、検討を進めてきた。令和元年11月に設置した「屋内50m水泳場及びスポーツ科学拠点施設の整備に関する有識者会議」においては、施設の在り方や設備の内容について専門的、技術的観点から提言を頂くとともに、整備地の決定にあたっては地元市の意向を十分に確認したうえで決定すべきであるとの報告を頂いた。

また、令和2年12月には「埼玉県屋内50m水泳場及びスポーツ科学拠点施設整備地選定委員会」を設置した。両施設の最適な整備場所について「県域全体を見据えた有効性」「今後の埼玉を見据えた将来性」「県民全体の有益性」の3つの視点から検討いただき、令和3年3月に、屋内50m水泳場の候補地として、川口市神根運動場及び神根公園が最適であるとの報告を頂いた。

令和3年度は、サウンディング型市場調査を実施し、整備場所を所管する川口市とも整備に関する協議を開始した。

折しも、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1年延期され開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、水泳競技をはじめとする本県ゆかりのアスリートたちの姿が私たちに感動と勇気を与えてくれた。県民の水泳競技をはじめとするスポーツへの関心が高まっている今、水泳競技の競技力向上と県民のスポーツ振興を目指し、屋内50m水泳場の整備を推進するための「屋内50m水泳場整備事業基本計画」を策定し県民の皆様に発信する。

整備する水泳場は、日本水泳連盟公認の県内初の公営屋内50m水泳場として、水泳競技の各種大会を開催し、アスリートが自らの能力と技術の限界に挑む機会を提供するとともに、充実したトレーニング、練習会等を行える環境を提供する。県が上尾市に設置を検討しているスポーツ科学拠点施設のサテライト施設として、スポーツ科学の知見を活かし科学的根拠に基づくアスリート支援を行うとともに、様々な競技のトレーニングやリハビリなどに水中運動を活用するための支援も行う。

また、年間を通じて天候に左右されず利用できる環境を整えるとともに、ユニバーサルデザインを取り入れ子供から高齢者まで障害の有無にかかわらず県民誰もが利用しやすい施設とする。

本施設を水泳のアスリートだけでなく多くの県民が訪れるスポーツ拠点とし、スポーツの振興を通じた埼玉県の発展を目指す。

## 2. 基本計画の位置付け

- (1) 本計画は、屋内50m水泳場がアスリートの競技力向上だけでなく、県民の体力・健康づくりや水泳をはじめとしたスポーツの普及を目的とし、県民に愛され、地域の誇りとなる施設を目指すことを広く県民に発信するものである。
- (2) 本計画は、屋内50m水泳場をPFI方式で整備するにあたり基礎となる事項を示すものである。今後、要求水準書の作成や事業者選定にあたって、事業者の創意工夫あふれる提案を生かしより良い施設整備を進めるため、この基本計画をもとに引き続き検討していく。

## 3. 屋内50m水泳場整備における基本的な考え方

- (1) 本計画では、アスリートにはパラアスリートを含むものとする。本施設は、ユニバーサルデザインを推進し、性別、年齢、障害の有無に関わらず誰もがスポーツを楽しめる共生社会の実現を目指す施設とする。
- (2) 本施設は、アスリートだけでなく県民誰もが利用できる施設とする。また、県民向けのスポーツ科学の知見に基づく情報を提供するなど水泳をはじめとした県民のスポーツ振興、健康増進を図る施設とする。
- (3) 本施設は、埼玉県と川口市が連携して整備し、地域に愛され多くの県民が訪れるスポーツの拠点を目指す施設とする。整備の詳細については、引き続き川口市と協議を行う。

## 4. 設置目的

- (1) 日本水泳連盟公認の**県内初の公営屋内50m水泳場を整備し**、アスリートの**競技力の向上**につなげるとともに、**国内主要大会を開催し**、水泳の普及振興を図る。
- (2) 1年を通して天候に左右されず**誰もが水に親しむ環境を創出し**、県民の健康増進・スポーツ実施率の向上を図る。



屋内50m水泳場のイメージ図

## 5. 導入機能

### (1) 国内主要大会の開催

競泳、飛込、水球、アーティスティックスイミングなどの国内主要大会が開催可能な各種水泳競技基準を満たすプールとする。  
また、大会開催に対応可能な観客席数を確保するとともに、大会開催時に使用する各種諸室を整備する。

国内主要大会・県内大会合わせて、**年間約 60 日の誘致を見込む。**



大会開催時の水泳場イメージ図

【各種水泳競技基準】とは

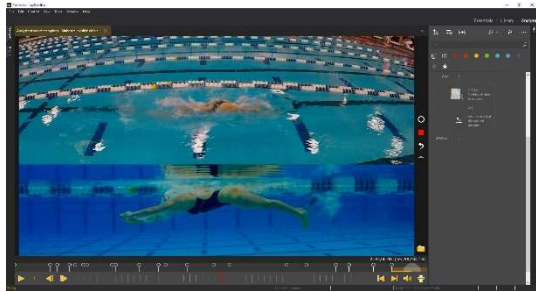
日本水泳連盟が定める「プール公認規則」及び「公認プール施設要領」のことで、大会開催にあたり競技ごとに必要なプールの寸法や、備えるべき設備や諸室について規定されている。



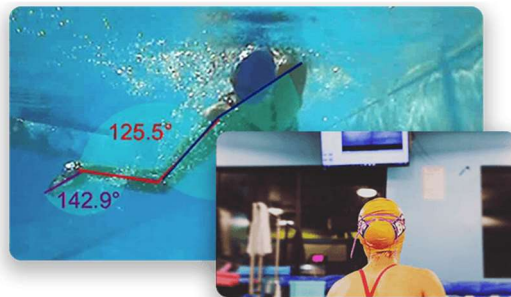
## (2) 競技力の向上

### ア アスリート支援

- ・水泳競技の各種大会を開催し、**アスリートが自らの能力と技術の限界に挑む機会を提供する。**
- ・**競技力向上施設を整備し**、競泳・飛込・水球・アーティスティックスイミングの充実したトレーニング、練習会等を行える環境を提供する。
- ・**スポーツ科学拠点施設のサテライト施設**として、水泳場での測定データ等を拠点施設で分析し、スポーツ科学の知見を活かし科学的根拠に基づくアスリート支援を行う。



泳法解析システムによる測定例



スイムベンチによるストローク強化練習

#### 【競技力向上施設】とは

プールに複数のカメラを設置し、スタート時の入水角度や泳法を解析する泳法解析システムや、陸上で負荷をかけたストローク練習を行い、筋力アップやフォームづくりのために使用するスイムベンチ等

#### 【スポーツ科学拠点施設】とは

スポーツ科学の知見に基づいた測定や指導による多様な競技の競技力向上や、県民のスポーツ実施率の向上及び健康づくりを目的として埼玉県上尾市に設置を検討している施設

## イ 指導者育成

- ・最新のトレーニング、コンディショニングの手法や、コーチングなどが学べる研修等を実施する。
- ・科学的根拠に基づいた指導ができる人材を育成するため、スポーツ科学拠点施設と連携した研修等を実施する。
- ・様々な競技のトレーニングやリハビリなどに、水中運動を活用するための研修等を実施する。



プールサイドでのコーチング研修



プールを活用したリハビリテーション

### (3) 県民が水と親しむ環境の創出

#### ア 体力・健康づくりの促進

- ・年間を通じて天候に左右されず県民が利用できるとともに、ユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが使いやすいプールとする。
- ・可動床、可動壁など利用方法を柔軟に転換できるプール形態とし、未就学児教室や水中ウォーキングなど県民の体力・健康づくりのため各種教室を実施する。
- ・メインプールゾーンとサブプールゾーンを分けることで大会開催時の選手と一般利用の県民の動線を分離し、**県民が利用できる機会を可能な限り確保**し、県民の体力・健康づくりに関する多様なニーズに対応する。



子供向けの水泳教室

#### 【可動床】とは

プールの床を上下させることで水深を自由に変更できる装置。水深を 0.5m～5m 程度まで変更させることで、未就学児の教室から飛込まで、1つのプールを多用途に活用することができる。

#### 【可動壁】とは

50m プールの壁を水平移動することで 25m プール 2面に分割できる装置。25m プールのレーンが多く必要な県大会等での活用や、可動床との組み合わせにより異なる水深で柔軟な活用ができる。

## イ 水と触れ合える多様な機会の提供

- ・誰もが気軽に立ち寄ることができ、**広く県民に開かれた親しみやすいプール**とする。
- ・プールを使った様々なアクティビティの体験会など、**県民誰もが身近に水と触れ合える機会を提供**する。
- ・親子で参加できるプールでのレクリエーション講座など、**水と触れ合う楽しさを体感できる機会を提供**する。



プールでのダイビング



親子参加のレクリエーション

## ウ 水泳をはじめとする多様なスポーツやアクティビティの普及啓発

- ・アスリートが泳ぐ姿を身近に「見る」ことや、アスリートが泳いだプールで「泳ぐ」ことで、**水泳をきっかけとしたスポーツへの関心や参加意欲を高める。**
- ・子供から高齢者まで障害の有無にかかわらず**県民誰もがプールを活用した体力・健康づくりや多様なアクティビティ**に取り組めるよう、**県内への情報発信や普及啓発**を図る。
- ・**スポーツ科学拠点施設と連携し**、県民がスポーツを行う際に科学的知見を取り入れられるよう広く情報発信を行う。



水中ウォーキング教室

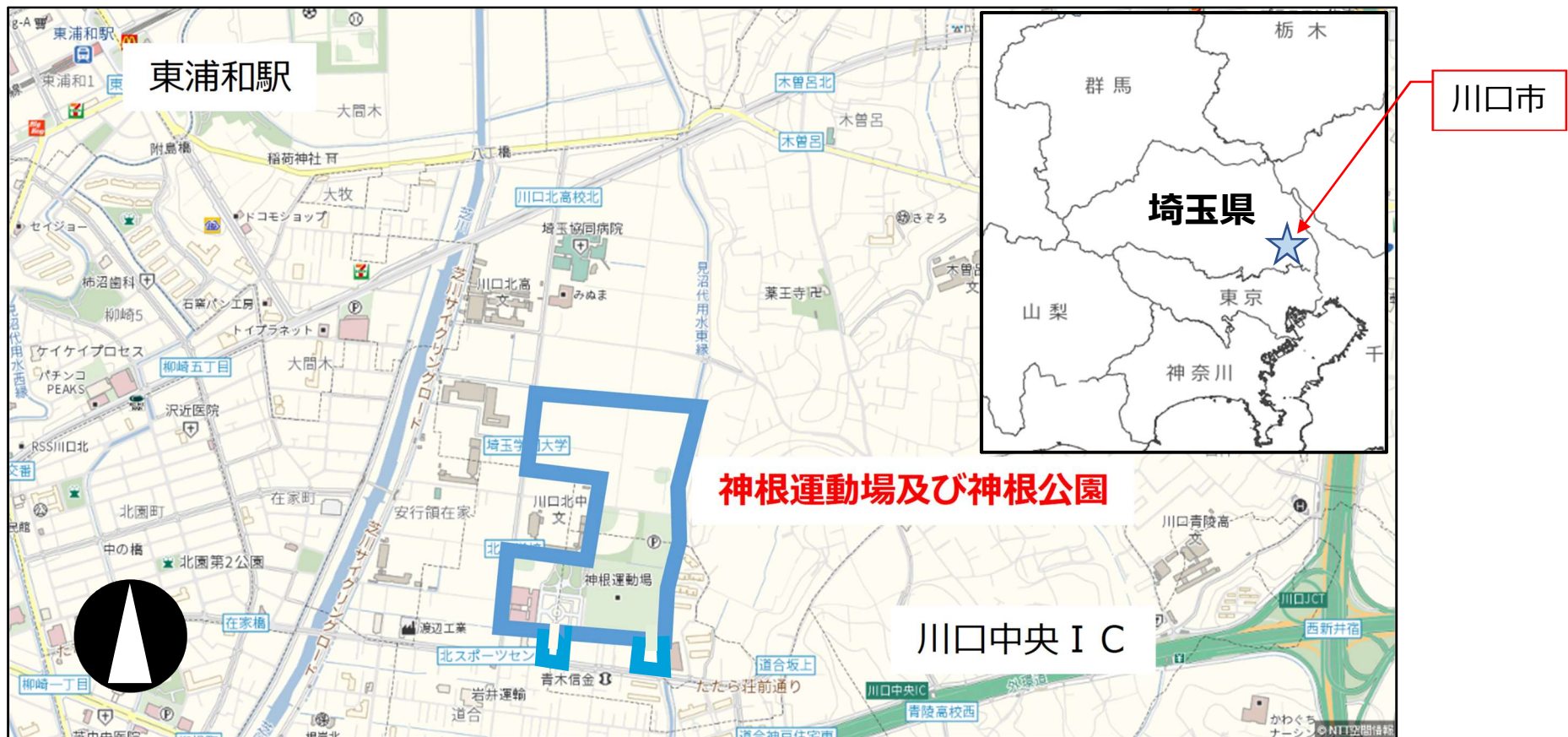


水上ヨガ教室

## 6. 整備場所

川口市神根運動場及び神根公園内に整備する。

### (1) 神根運動場及び神根公園の立地

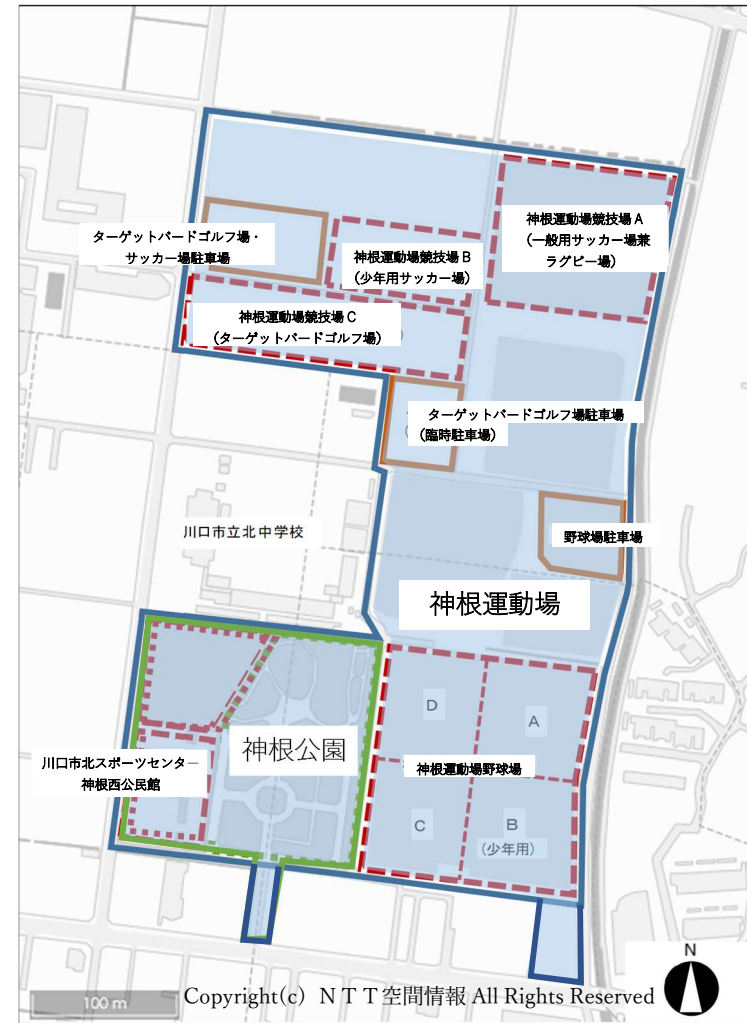


Copyright(c) NTT空間情報 All Rights Reserved

## (2) 神根運動場及び神根公園概要

所在地	埼玉県川口市大字神戸 767-1 他
敷地所有者	川口市
敷地面積	神根運動場：約 10.2ha 神根公園：約 2.7ha
区域区分	神根運動場：市街化調整区域 神根公園：市街化調整区域
建ぺい率	神根運動場内：50% 神根公園内：22% (便益施設及び管理施設 2%、休養・運動・教養施設等 20%)
容積率	神根運動場内：100% 神根公園内：100%
交通アクセス	電車：J R 武蔵野線「東浦和駅」から徒歩 25 分 バス：J R 京浜東北線蕨駅から約 20 分「北スポーツセンター」下車
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北スポーツセンター及び神根西公民館</li> <li>・神根運動場野球場（A～D）</li> <li>・神根運動場競技場 A（一般用サッカー場兼ラグビー場）</li> <li>・神根運動場競技場 B（少年用サッカー場）</li> <li>・神根運動場競技場 C（ターゲットバードゴルフ場）</li> <li>・駐車場</li> </ul>

※水泳場設置にあたり、川口市が運動場全体を都市公園に変更予定



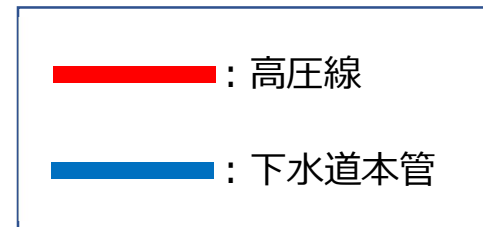
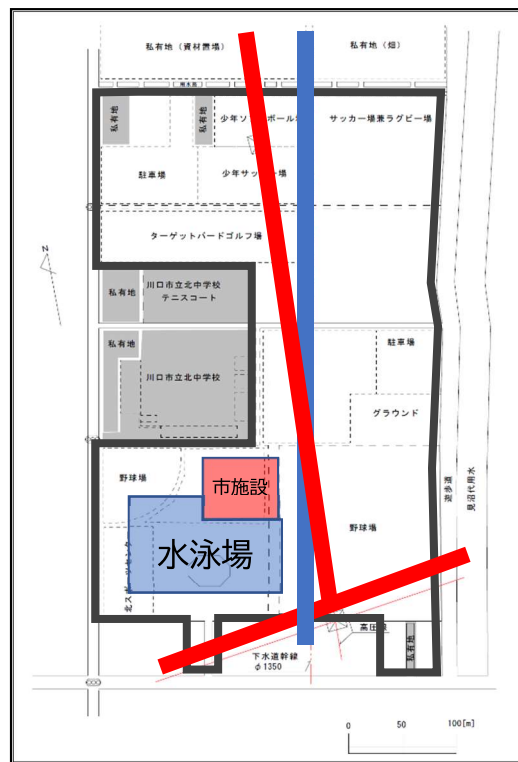
神根運動場及び神根公園現況図

### (3) 施設配置のポイント

配置場所決定に際しては、以下の点に留意した。

#### ア 基盤施設への影響回避

- 敷地内の高圧線及び下水道本管に支障がないよう施設配置

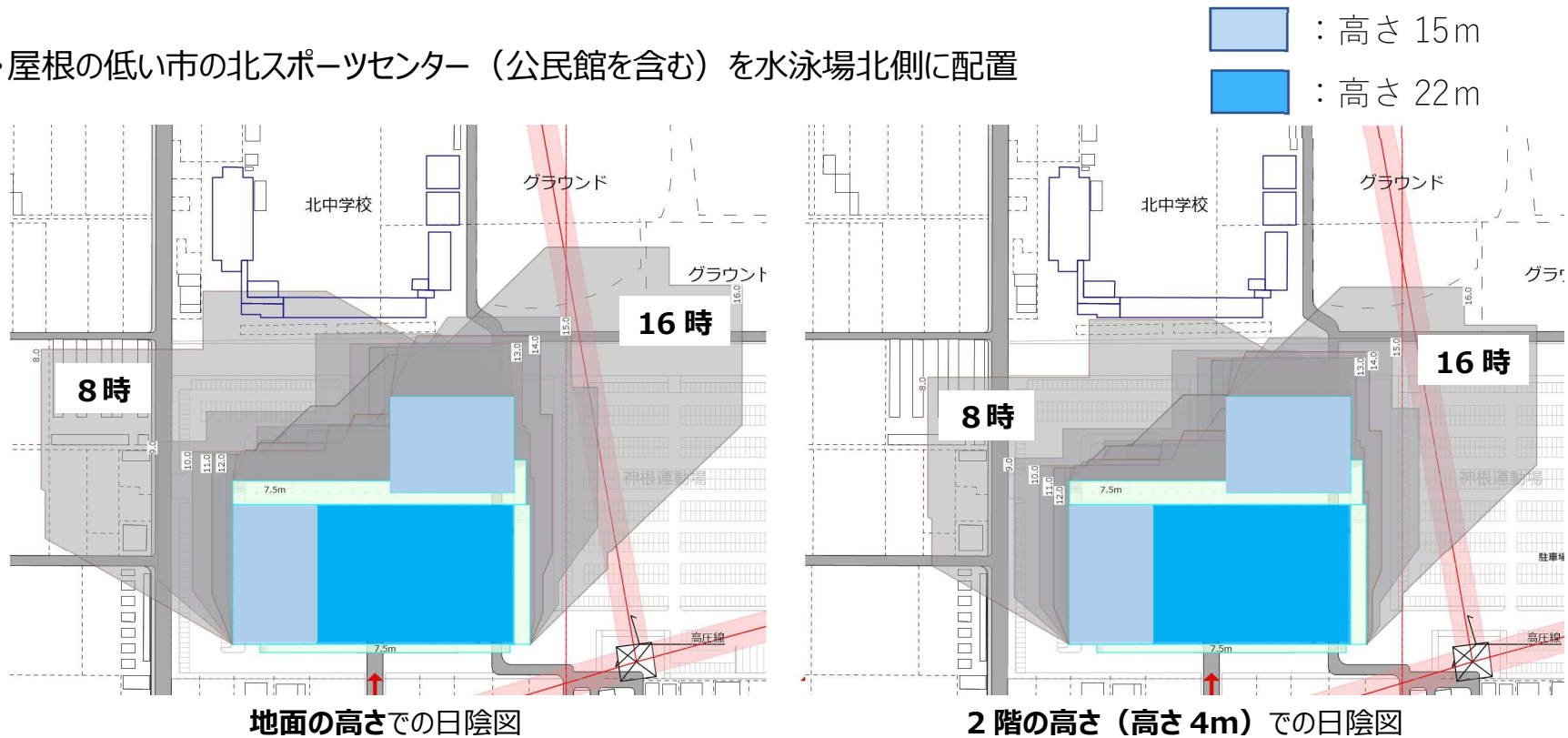


神根運動場敷地内の高圧線等敷設図



## イ 北中学校への日陰対策

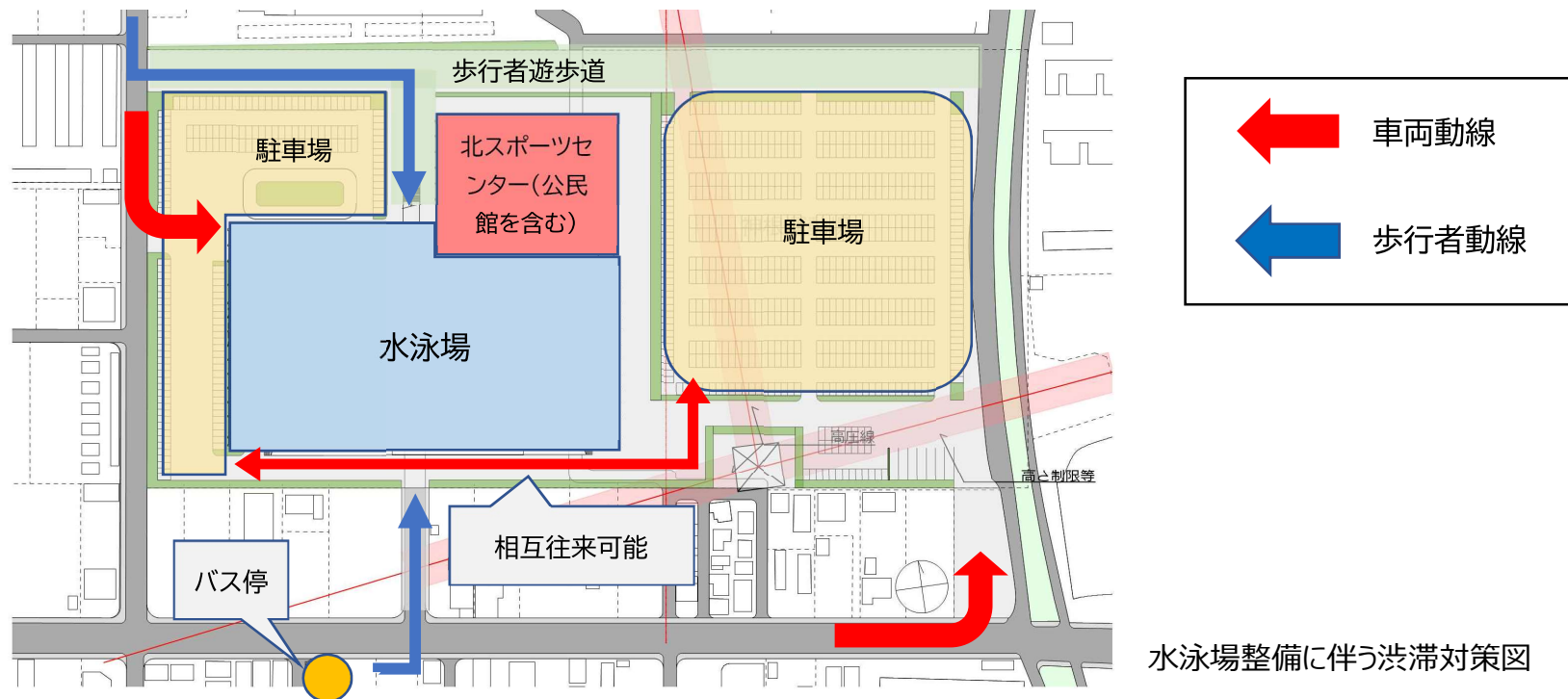
- ・水泳場と北中学校の間に駐車場を設け、北中学校との距離を確保
- ・屋根の低い市の北スポーツセンター（公民館を含む）を水泳場北側に配置



※シミュレーション条件：冬至の8時～16時

## ウ 渋滞対策

- ・敷地内で東西の駐車場の往來を可能とすることで道路混雑を抑制
- ・駐車場への入口を2か所設け、進入車両を分散することで進入時の道路混雑を抑制
- ・公共交通機関の利用を促進することで道路混雑を抑制
  - ┌ -北中学校との間に歩行者遊歩道を整備し、東浦和駅からの徒歩での来場者の最短の動線を確保
  - └ -最寄りのバス停（敷地南側）からの最短の動線を確保
- ・コミュニティバスや路線バスの増便、水泳場敷地内への乗り入れなど公共交通機関によるアクセス性の強化等について川口市と検討を行う。



## 7. 整備施設

屋内 50m 水泳場として整備する主要な施設は以下のとおりである。

### (1) 整備施設の内容と必要性

施設名	内容	整備の必要性
メインプール	50m×10レーン×水深 3m 可動床・可動壁	水深 3 m : 国際規格のプールとするため。アーティスティックスイミングの国内基準を満たすため 可動床 : 未就学児教室(0.5m)、水中ウォーキング(1.2m)、水球(2m)、アーティスティック(3m)等多用途で活用するため 可動壁 : 上記用途を同時活用するなど、柔軟な運営を可能とするため
飛込プール	25m×22m×水深 5m 可動床	飛込プール : 国内主要大会の誘致に必要なため。競泳の大会開催時にウォーミングアッププールとして利用することで、サブプールを一般開放し、収益性向上につなげるため 水深 5 m : 国際大会と同じ環境で大会や練習を行うため 可動床 : 上記多用途で活用するため

観客席	3,000 席 (メイン・飛込プール用)	以下の理由により 3,000 席とした ・過去 10 年間の <u>大規模な国内主要大会</u> は全て観客席 3,000 席以上の会場で開催されている ・ <u>県水泳連盟主催大会</u> のうち 3,000 人程度の来場が見込まれる大会が 30%程度ある ・ <u>都道府県が持ち回りで開催している大会</u> の誘致が期待できる
サブプール	25m×10レーン×水深 2m 可動床	サブプール：水泳場の国内公認取得に必要なため。大会開催時でも一般向けの事業を実施し、収益性向上及び県民の健康増進につなげるため 可動床：未就学児教室(0.5m)、水中ウォーキング(1.2m)等多用途で活用するため
大会諸室	役員控室、審判室、選手控室、ドーピング検査室等	水泳場の国内公認取得に必要なため
競技力向上施設	泳法解析装置、スイムベンチ・フィットネスバイク等	スポーツ科学拠点施設と連携したトレーニングや指導に活用し、水泳の競技力向上につなげるため。泳法解析装置は可搬式カメラによる簡易なシステムとする

※記載内容は現時点の想定であり、今後の検討状況等によって変更が生じる場合がある。

#### 【大規模な国内主要大会】

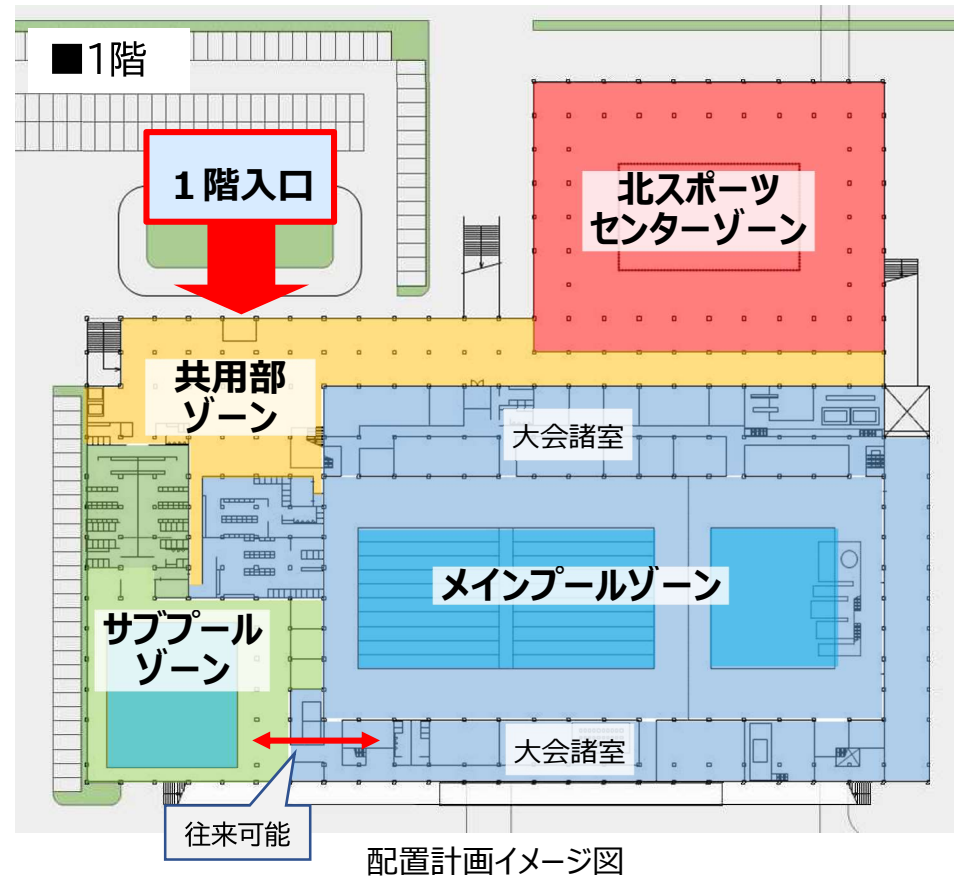
日本選手権水泳競技大会、ジャパンオープン、ジュニアオリンピックなど

#### 【都道府県が持ち回りで開催している大会】

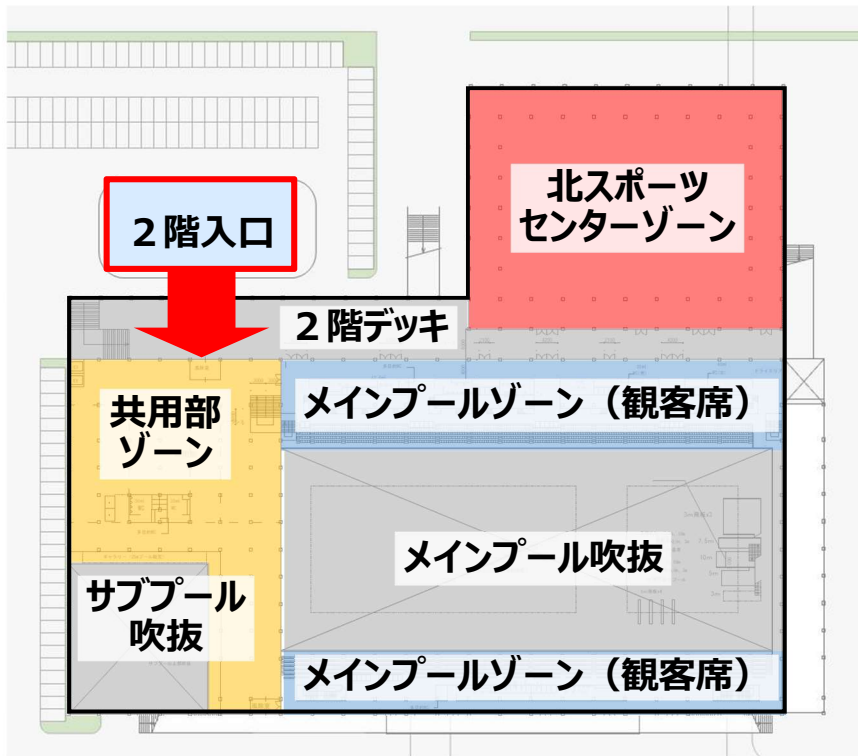
国民体育大会、日本高等学校選手権水泳競技大会（インターハイ）、全国中学校水泳競技大会、全国国公立大学選手権水泳競技大会、関東高等学校選手権水泳競技大会、関東中学校水泳競技大会など

## (2) 配置にあたっての考慮事項

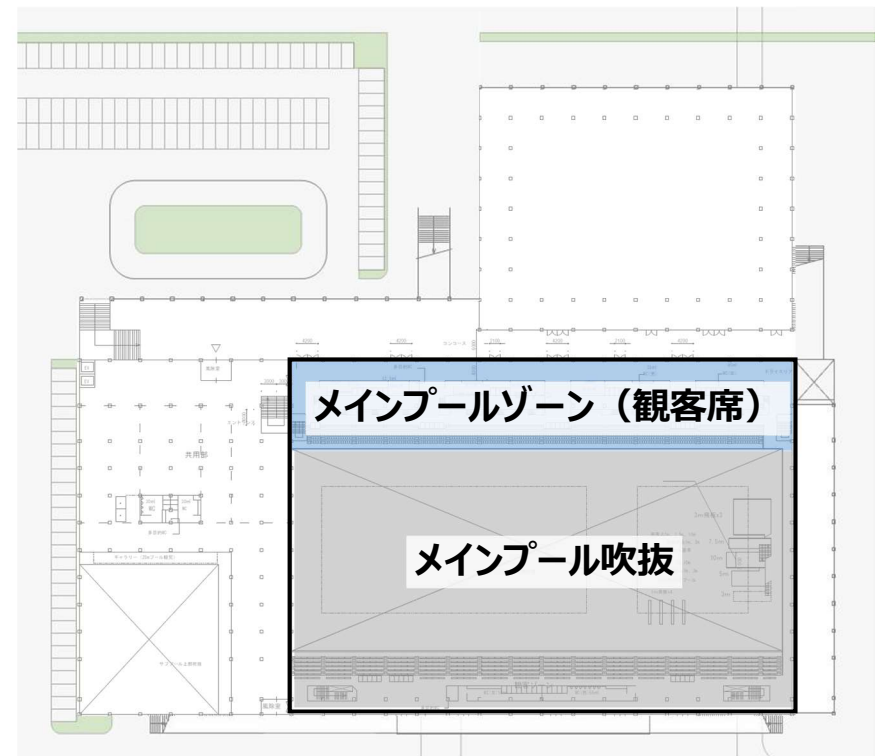
- ・大会運営を円滑にするため、メインプール・飛込プールの両側に大会諸室を配置
- ・選手と観客及び一般利用者の動線が重ならないように、メインプールゾーンとサブプールゾーンを別々に配置
- ・大規模大会開催時に、メインプールとサブプールの往来がしやすいように並べて配置



■2階



■3階



配置計画イメージ図

ゾーン名	内容
<p>メインプールゾーン (約 9,200 m<sup>2</sup>)</p>	<p>メインプール：50m×10レーン×水深 3m（可動床・可動壁）  飛込プール：25m×22m×水深 5 m（可動床）  観客席：3,000 席  大型映像装置、競技本部、役員室、計時機器室、記録室、審判室、  選手招集室、医務室兼ドーピング検査室、飛込競技役員室、会議室、  研修室、コーチ室、報道関係者室、放送室、プール監視室、倉庫、  泳法解析装置データ処理室、ドライランド、採暖浴槽、採暖室、更衣室、  多目的更衣室、トイレ、多目的トイレ、観客用トイレ、  売店・自販機コーナー等</p>
<p>サブプールゾーン (約 1,500 m<sup>2</sup>)</p>	<p>サブプール：25m×10レーン×水深 2m（可動床）  監視室、採暖室、更衣室、多目的更衣室、倉庫等</p>
<p>共用部ゾーン・その他 (約 10,300 m<sup>2</sup>)</p>	<p>エントランス、事務室、中央監視室、キッズエリア、展示スペース、  トイレ、多目的トイレ、キッズトイレ、おむつ替えスペース、自販機コーナー等</p>
<p>北スポーツセンターゾーン ※川口市が整備</p>	<p>体育館、公民館等 ※詳細は川口市が検討</p>

※記載内容は現時点の想定であり、今後の検討状況等によって変更が生じる場合がある。

## 8. 事業スキーム

### (1) 施設整備の方針

川口市が整備を予定している北スポーツセンター（公民館を含む）と合築整備とし、整備費・運営費の効率化を図る。土地は川口市から無償貸与を受けるが、合築における整備分担や費用負担は今後の川口市との協議により決定する。両施設を単独整備した場合と合築整備した場合を比較して、合築整備とするメリットは以下のとおり。

- ・エントランス等の共有による整備費削減
- ・運営の効率化による管理費削減
- ・利用者の利便性の向上

[利便性向上の例]

- ・北スポーツセンター（公民館を含む）利用者の屋内50m水泳場利用、水泳教室等への参加等
- ・水泳場での大規模大会開催時の選手控え場所の確保 等

施設の共有イメージ（○：単独整備の場合の整備施設）

施設名	整備分担	屋内 50m 水泳場	北スポーツセンター
50mプール	県整備	○	
25mプール		○	○
飛込プール		○	
会議室等諸室		○	
エントランス	共同整備	○	○
体育館	市整備	○	○
公民館			○



## (2) 事業手法の検討結果

民間活力導入可能性調査を以下のとおり実施した。

### ア 定性的評価

#### (ア) 他県事例による定性的評価

官民連携手法を導入した公共体育施設（屋内 50m水泳場）における維持管理・運営期間は、先行事例では概ね 15 年の期間となっている。

<参考> 他県で現在整備中の屋内 50m水泳場

事業名称 【事業主体】	開設	施設概要	事業方式	運営期間	事業者選定後の VFM
新青森県総合運動公園新水泳場等整備運営事業（仮称） 【青森県】	R6 予定	・延床面積：8,133 m <sup>2</sup> 、観客席 2,000 席 ・メインプール：50×25×2m、可動床・可動壁	PFI	15 年	5.7%
（仮称）草津市立プール整備・運営事業 【滋賀県草津市】	R6 予定	・延床面積：13,274 m <sup>2</sup> 、観客席 2,500 席 ・メインプール：50×25×3m、可動床・可動壁 ・飛込プール：25×17×5m ・サブプール：25×15×1.4m	PFI	15 年	15.4%
県プール整備運営事業 【宮崎県】	R7 予定	・延床面積：13,000 m <sup>2</sup> 以上、観客席 2,500 席 ・メインプール：50×25×2m、可動床 ・サブプール：25×16×1.4m	PFI	15 年	9.9%

## (イ) サウンディング型市場調査による定性的評価

### a サウンディング型市場調査の概要

- ・実施期間：令和3年7月15日～令和3年7月21日（追加ヒアリング：8月3日～8月31日）
- ・参加事業者数：53団体（法人又は法人及び団体のグループ）
- ・参加業種：建設・設計／維持管理・運営／金融／販わい創出／プロスポーツ

### b 主な意見

- ・プールは他県でも**PFI**実施例が多い
- ・運業者が設計から関わることで**利用しやすい施設整備**ができるため、**効率的な運営**ができ**コスト削減**につながる
- ・川口市が建て替え予定の北スポーツセンター（公民館を含む）との**合築による整備・運営**が効率的である
- ・水泳場内での飲食・カフェは**採算性が厳しい**。公園内に整備し公園利用者にも利用してもらう

## イ 定量的評価

従来手法で整備した場合と、PFI手法で整備した場合の整備費比較を行った。

従来手法の場合の整備費：約142億円	}	整備費に対するPFIの事業効果は約12億円
PFI手法の場合の整備費：約130億円		

※現時点の条件で整備費を試算して評価したもの。

### 【サウンディング型市場調査】とは

事業発案段階や事業化段階において、事業内容や事業スキーム等に関する直接の対話により、民間事業者の意見や新たな提案の把握等を行うことで事業の検討を進展させるための情報収集を目的とした手法。また、事業の検討段階で対外的に広く情報提供することで、民間事業者の参入意欲向上が期待できる。

## ウ 事業手法の考え方

民間活力導入可能性調査の結果をまとめると以下のとおりである。

- ・全国的にPFI方式でスポーツ施設の整備を行っている事例が増えており、50m水泳場については、兵庫県、静岡県、新潟県、栃木県、青森県、宮崎県でPFI方式を採用している。
- ・民間サウンディング調査では、設計から運営まで一体実施によるコスト削減が可能との意見が多数であった。
- ・VFMとしては、従来手法での整備と比較し、約10%の県負担額の削減を見込む。

**これらの結果を踏まえ、事業手法はPFI方式とし、運営期間は15年とする。**

※川口市北スポーツセンター（公民館を含む）のPFI事業の範囲については、今後の川口市との協議により決定する。

### 【VFM】とは

- ・ Value For Money の略。
- ・ 「お金の価値を最大化する」といった考え方で、費用の削減や費用対効果の増大により最大化を図る。
- ・ PFI事業においては、設計段階から運営業者が関わることで、運営しやすい設計にするなどによりVFMの達成を図る。

## 9. 事業費

### (1) 整備費

他自治体における類似施設の施設整備の事例から、現時点での建設単価や施設規模を参考として必要な整備費を試算した。

**約 130 億円**

### (2) 運営費

他自治体における類似施設の施設運営の事例から、現時点での料金設定等を参考として維持管理に係る費用や大会利用・水泳教室等の利用形態別の収入を試算した。

支出額：約 4.4 億円/年

収入額：約 1.2 億円/年

※今後の検討状況や建設単価等の変動によって変更が生じる場合がある。

## 10. スケジュール

PFI方式を導入するため、事業者の公募準備・選定・契約締結を行い、設計・建設工事を経て令和9年度中の開設を想定している。

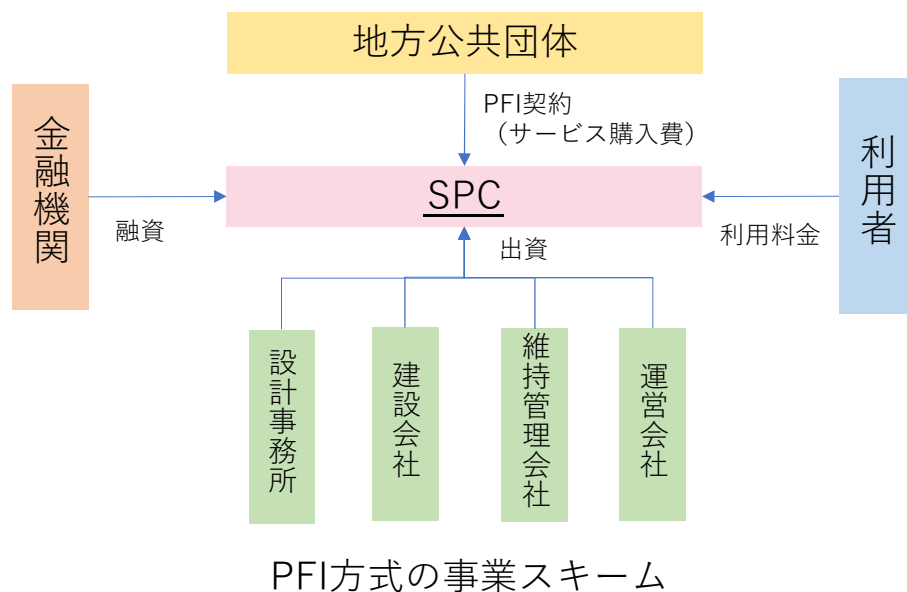


要求水準書の作成や事業者選定に当たっては、事業者の創意工夫あふれる提案を生かしより良い施設整備を進めるため、この基本計画をもとに引き続き検討していく。

## 参考. PFI について (出典: 内閣府ホームページ)

### (1) PFI とは

- ・「PFI (Private Finance Initiative : プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法です。
- ・民間の資金、経営能力、技術的能力を活用することにより、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる事業について、PFI 手法で実施します。
- ・PFI の導入により、国や地方公共団体の事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供を目指します。
- ・我が国では、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI 法) が平成 11 年 7 月に制定され、平成 12 年 3 月に PFI の理念とその実現のための方法を示す「基本方針」が、民間資金等活用事業推進委員会 (PFI 推進委員会) の議を経て、内閣総理大臣によって策定され、PFI 事業の枠組みが設けられました。



#### 【SPC】とは

- ・ Special Purpose Company の略。
- ・ ある特別の事業を行うために設立された事業会社のこと。
- ・ PFI 事業においては、公募提案する共同企業体が新会社を設立して建設・運営・管理にあたることが多い。

「PFI方式で整備した屋内50m水泳場の事例」

No	事業名称【事業主体】	開設	施設概要
1	尼崎の森中央緑地スポーツ健康増進施設整備事業【兵庫県】	H18	<ul style="list-style-type: none"> <li>延床面積：16,021 m<sup>2</sup>（全施設合計）</li> <li>屋内50mプール（観客席2,000席。冬季はアイススケートリンク）、屋内25mプール（観客席320席）、トレーニング室、屋外運動施設等</li> </ul>
2	（仮称）浜松市新清掃工場・新水泳場整備運営事業【静岡県浜松市】	H21	<ul style="list-style-type: none"> <li>延床面積：17,700 m<sup>2</sup></li> <li>屋内50mプール（観客席3,000席）、屋内25mプール、スイムミル、屋内レジャープール、屋内子どもプール、トレーニング室、屋外レジャープール、温浴施設等</li> <li>清掃工場の余熱を利用</li> </ul>
3	県立長岡屋内総合プール（仮称）整備・運営事業【新潟県】	H20	<ul style="list-style-type: none"> <li>延床面積：15,094 m<sup>2</sup></li> <li>屋内50mプール（観客席2,000席、常設木デッキ席1,000席）、屋内25mプール、飛込プール、温浴プール、トレーニング室等</li> </ul>
4	鹿児島市新鴨池公園水泳プール整備・運営事業【鹿児島県鹿児島市】	H23	<ul style="list-style-type: none"> <li>延床面積：8,418 m<sup>2</sup></li> <li>屋内50mプール（観客席1,554席）、屋内25mプール、屋外飛込プール、スタジオ等</li> </ul>
5	総合スポーツゾーン東エリア整備運営事業（仮称）【栃木県】	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋内水泳場にあわせて新設する体育館を含む延床面積：37,367 m<sup>2</sup>（うち屋内水泳場について）</li> <li>屋内水泳場：屋内50mプール、屋内25mプール（飛込兼用）、観客席2,156席、プールサイド観客席1,000席</li> </ul>

※事業名称は公募時のものである。

## (2) PFI 方式活用により期待される効果

### ア 低廉かつ良質な公共サービスが提供されること

PFI 事業では、民間事業者の経営上のノウハウや技術的能力を活用できます。また、事業全体のリスク管理が効率的に行われることや、設計・建設・維持管理・運営の全部又は一部を一体的に扱うことによる事業コストの削減が期待できます。これらにより、コストの削減、質の高い公共サービスの提供が期待されます。

### イ 公共サービスの提供における行政の関わり方の改革

従来、国や地方公共団体等が行ってきた事業を民間事業者が行うようになるため、官民の適切な役割分担に基づく新たな官民パートナーシップが形成されていくことが期待されます。

### ウ 民間の事業機会を創出することを通じ、経済の活性化に資すること

従来、国や地方公共団体等が行ってきた事業を民間事業者にゆだねることから、民間に対して新たな事業機会をもたらします。また、他の収益事業と組み合わせることによっても、新たな事業機会を生み出すこととなります。PFI 事業のための資金調達方法として、プロジェクト・ファイナンス等の新たな手法を取り入れることで、金融環境が整備されるとともに、新しいファイナンス・マーケットの創設につながることも予想されます。このようにして、新規産業を創出し、経済構造改革を推進する効果が期待されます。

#### 【リスク管理】とは

事業を進めていく上では、事故、需要の変動、物価や金利の変動等の経済状況の変化、計画の変更、天災等さまざまな予測できない事態により損失等が発生するおそれ（リスク）があります。PFI では、これらのリスクを最もよく管理できる者がそのリスクを負担します。